

「安全安心社会の為の Safety Service Engineering」(SSE 研究会)

第 6 回研究会・議事録

2010 年 9 月 28 日 13:30 - 16:00

出席者：13 名

幹事： 加部隆史、NPO 安全工学研究所

1. 話題提供

リスクベース社会の構造～完璧人間像とリスクベース社会 (50 分)

明治大学理工学部教授

杉本 旭

<資料 No.17>

日本の安全はリスクベースになっていない。品質については、第 1 者と第 2 者が完全な品質の価値を共有し、完璧信頼性を持つ。安全は確認して、改めて安全と認められ、それが確認できないときは危険とみなす。完璧人間像を確定論で求め、人間は不完全であるがゆえに、不完全性（確率論）で評価する事が必要。そして妥当性検証も重要な要素となる。これらの段階を経て、不慮の事故があっても組織や制度を守る条件を安全により守る事が必要。

質問：日本は法制度がリスクベースとなっていないが、これを打破する方法はあるか？

回答：経済問題の為、ベネフィットを明示する事で前進可能。

2. 事例研究 7 (S 社) (30 分)

ソニーグループにおける機械設備安全管理の手法について

SONY

樽松壽章

<資料 No.18>

機械の包括的な安全基準に関する指針を遵守及びその実効性を高め、グループ内での労災の減少を目的として、機械設備の安全化の手法を構築した。各事業所に導入される設備は、リスクアセスメントの実施を前提として、それを 4 段階の適合性評価により確認する。コンピュータによるシステム管理を運用する専門家ゲートキーパーが要請される。トップの意識と平準化がキーワードとなる。

3. 事例研究 8 (F 社) (30 分)

富士電機の安全への取り組み御紹介 (システム・ソリューション)

富士電機システムズ株式会社

戸枝毅

<資料 No.19>

国内では安全の普及度が十分でなく、安全機器の単品販売は商売にならない。安全機器によるコストアップをなかなかユーザが認めてくれない。その為、システム・ソリューションを主体とした営業活動を展開している。国内の機械設備は、グローバルな観点から見て決して最高の技術水準に達しておらず、これらの分野での改善が望まれる。

4. その他

第 7 回 SSE 研究会 (2010 年 10 月 13 日) 中間とりまとめ (案) 作成

第 8 回 SSE 研究会 (11 月 6-7 日、合宿) 中間取りまとめに関する議論

以上